

さんむのふるさと散歩

No.10

市北部の埴谷はなやに所在する妙宣寺みょうせんじは、お隣の長光寺ながみつじとともにしだれ桜の名所として名高く、例年3月末〜4月初めには多くの花見客でにぎわいます。その歴史は古く、南北朝時代（十四世紀）に当地の豪族埴谷氏の氏寺として建立されたことがわかっています。

埴谷氏は下総守護千葉家の家臣として、あるいは関東管領犬懸上杉家の直臣として大きな権力を持ち、その庇護のもと妙宣寺は隆盛して日英など日蓮宗中山門流の高僧を輩出します。「なべかむり」の法難で知られた日親上人も妙宣寺で出家

し、中山（現市川市法華経寺）に登り、やがて九州や京都で活躍しました。瀟洒な山門をくぐると件のしだれ桜が左右に立ち、その先に大きな本堂があります。こちらに創建期の古仏群（写真）が遺存していることが確認されたのは最近のことです。日蓮聖人の御曼陀羅の世界を体現する釈迦・多宝如来と四大士像ですが、近年の修復で表面の金箔が改められていて新しそうに見えるものの、衣や裳の先を台座から下に垂らす姿は、鎌倉末〜南北朝

期に鎌倉地方で隆盛した「法衣垂下式」と呼ばれる様式に相違ありません。



妙宣寺の多宝如来（正面）

記録によりま
すと、埴谷重継
は妙宣寺の堂宇
を徐々に整え、
明徳元（一三九
〇）年に落慶式

を行っていましたが、その時の導師（中山四世日尊）のあまりに豪華な衣装が、後に宗内で物議をかもしほど盛大な儀式でした。それほど熱を入れた妙宣寺の本尊仏ですから、当代一級の鎌倉仏師が起用されたことは間違いなく、事実これらのお像の出来栄えは出色のもので、十四世紀鎌倉の優れた技術を伝える誠に貴重な文化財といえます。

山武市域には中世に鎌倉の社寺領が点在し、先進の文化が導入されました。他にも多くの優れた美術が伝存していますが、意外に市民に知られていないのが現状です。月末には特別公開も予定されていますので、この機会に皆さんもふるさとの古寺を訪ねてみてください。

山武市文化財審議会委員

濱名 徳順